

## 2023年度 青森民医連学術運動交流集会

3月17日(日) 青森県総合社会教育センターにて、240名の参加で6年ぶりに集合開催で行いました。

コロナ禍からポストコロナへ世の中が変化する情勢の中、メインテーマを「ポストコロナ時代に求められる医療のパラダイムシフト」とし、午前の記念講演は「コロナ禍を超えて、46期に飛躍を」というテーマで、全日本民医連の増田剛会長を招き講演いただきました。

コロナ禍で露呈した社会保障の脆弱性、その中の民医連の奮闘と運動展開について事例をもとに一つひとつ説明がありました。世界の情勢としては、ジェンダー平等と気候変動、ウクライナ・パレスチナの軍事侵攻問題など多岐にわたり詳細なお話をいただきました。それを受けての今後2年間の民医連の取り組むべき課題や今後の展望などお話いただき、大変元気がでる講演となりました。

その後、能登半島地震被災地支援について青森民医連から参加した2名の方からスライドを用いた報告をいただきました。被災地のリアルな状況をわかりやすく報告いただき、被害の甚大さを改めて知ることができました。

午後には6つの分散会に分かれて67演題の発表が行われました。コロナ禍で各法人・事業所は多くの困難に直面してきましたが、その中でも決して停滞することなく取り組んだ様々な活動内容が発表されました。

今回は研修医をはじめとした医師の演題応募も複数あり分散会が深まり活発な議論が展開されました。また、今回は千葉大輔実行委員長(健生病院副院長)の提案により、座長賞を各分散会2つずつとし、さらに昼食を2種類準備

下館大史



2024年度

# 入職おめでとう!

## 津軽保健生協



2024年度  
入職者内訳

職 種	人数
医師	7
看護師	12
介護福祉士	1
理学療法士	6
作業療法士	1
言語聴覚士	3
診療放射線技師	1
臨床工学技士	2
調理師	1
事務	4
合 計	38

2024年度  
入職者内訳

職 種	人数
看護師	15
理学療法士	1
作業療法士	2
介護福祉士	3
事務	1
合 計	22

## 青森保健生協



2024年度 青森保健生活協同組合 入職式

## 医師紹介

石山 美咲  
岩手県出身

4月から小児科で勤務しております、石山美咲です。2年前には初期研修医としてお世話になり、再び健生病院で働けることを嬉しく感じています。小児科では体調不良や持病に加え、周産期・発達健診・予防接種等の場面で子どもや養育者のかたと関わる機会が増えると思います。健康や成長発達に関する不安や悩みに寄り添い、子育てのサポートができるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

木村 由佳  
青森県出身

はじめまして。私は青森県内で育ち、青森高校、弘前大学を卒業後に整形外科医として、スポーツ整形外科と膝・肩関節疾患を中心に診療を行って参りました。日々の診療において、運動器のみならず内部障害など多くの疾患でリハビリテーション医療の重要性を感じ、今回、半年間、リハビリテーション科で研修を行わせていただくこととなりました。皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

佐藤 江里  
北海道出身

はじめまして。弘前大学を卒業後、大学病院の糖尿病内科に所属しておりました。この春からこちらでお世話になることになり、新しい一歩を踏み出しています。専門バカなところがあるかもしれませんが、自分自身、いろんなことを学び、成長しながら、地域の皆様の健康に貢献できたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

武藤 千咲  
秋田県出身

2023年10月より外科で後期研修をさせていただいております、武藤千咲と申します。健生病院へ来てから約半年が過ぎましたが、スタッフの皆様がはつらつとしていて、また、優しく、とても働きやすい病院だと日々感じております。出身は秋田県大館市ですので、弘前市には小さい頃から遊びに来ており、馴染み深い街です。津軽地域の医療に貢献できるよう、これからも頑張ります。今後とも宜しくお願いいたします。

# 新入職医師紹介



いずくいし ななみ  
**霽石 渚南美**  
 北海道出身

はじめまして。4月より初期研修医として入職しました、霽石渚南美と申します。高校まで札幌で過ごし、大学受験を機に弘前へ参りました。春は弘前公園の桜に癒され、夏はねぶたから元気を貰い、秋は紅葉が美しく、冬は温泉を楽しむことができるこの地域で研修できることを嬉しく思っております。至らない部分も多々ありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



いずみ きょうへい  
**泉 匡平**  
 青森県出身

この度健生病院で研修させていただくことになりました、泉匡平と申します。出身は青森県の鶴田町です。大学の臨床実習で何度か健生病院でお世話になり、患者さんの治療だけでなく、生活などのサポートを手厚く行なっているという印象を受けました。そんな健生病院で、医療を学びたいと思っていましたため、実際に研修できることを嬉しく思っています。医師としても社会人としても未熟な部分が多々ありますが、精一杯学んでいきたいと思っております。よろしくお願い致します。

皆さん、こんにちは。4月より健生病院で初期研修医をしております星野愛と申します。私が弘前市に来たのは5年前で、社会人を経てから弘前大学医学部に学士編入しました。社会人としては大阪のテレビ局で11年勤めた後、アロマセラピーのサロンとスクールを自営していました。

社会人経験を活かして、ご縁のあった弘前で地域のお役に立てる医師として貢献していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



ほしの あい  
**星野 愛**  
 大阪府出身

はじめまして。初期研修医として入職致しました、田中友浩と申します。高校まで長野で生まれ育ち、大学入学を機に弘前へやって参りました。大学6年間で青森県各地を訪れ、その魅力に惹かれました。健生病院では大学の実習でお世話になり、どの科でも先生方から手厚い指導を受け、初期研修もこちらで働きたいと考えるようになりました。至らぬ点は多々ありますが、何卒よろしくお願い致します。



たなか ともひろ  
**田中 友浩**  
 長野県出身

4月から大野あけぼの薬局の薬剤師として入職しました、狛守花帆です。

まだまだ不慣れなことも多いですが、薬局の皆様にご指導いただきながら充実した日々を過ごしています。様々な経験を通してたくさんのことを学び、地域の皆様が信頼できる薬剤師を目指して精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



いずもり かほ  
**狛守 花帆**  
 大野あけぼの薬局  
 薬剤師

# 新入職員代表者紹介

健生病院に入職しました、一関俊太郎です。元々違う分野の会社員として働いていましたが、この度理学療法士へと職を変えました。新たな環境に飛び込む事に緊張しきりでしたが幸いにも親切的な同僚・先輩に恵まれ、今は少しずつ仕事を学んでいるところです。地域の皆さまの健康に寄与できるよう成長して参ります。よろしくお願い致します。



いちのせき しゅんたろう  
**一関 俊太郎**  
 健生病院  
 理学療法士

4月に青森保健生活協同組合に入職しました、三上優太郎です。配属先の組織部は様々な業務があり、分からないことが多いですが、優しい先輩方の丁寧な指導や組合員さんの応援の言葉などもあり充実した日々を送っています。一日一日を大切に、成長していきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願い致します。



みかみ ゆうたろう  
**三上 優太郎**  
 青森保健生活協同組合  
 本部 組織部



くどう りょうな  
**工藤 諒樹**  
 自立訓練所ほのぼの寮  
 精神保健福祉士

2024年度から自立訓練所ほのぼの寮の正職員となりました工藤諒樹(りょうな)です。これまでの3年間ほのぼの寮で経験を積ませていただきましたが、日々学びの毎日だと感じています。これからも利用者様と共に沢山の事を学び、吸収し、成長していきたいと思っております。まずは今日という日が明るく楽しい実りある1日になるよう、日々頑張ります！よろしくお願い致します！

# さようなら原発・核燃

## 「3・11」青森集会

しあわせに生きたい！しあわせに生きよう！

2024年さようなら原発・核燃3・11青森集会は3月10日（日）青森市の青森市民ホールで開かれました。東日本大震災とその後発生した福島第一原発事故により、福島県内で直接亡くなった方は約1,600人、関連死者数は約2,300人と伝えられています。その福島では、放射能汚染で多くの方が故郷に戻れない状態が13年経った今も続いています。

集会では、講演や活動報告が行われ、近く使用済み核燃料の搬入が予想されており活動も正念場になること、フルMOXという実験原発には反対することなどの報告があり、再処理工場の本格稼働や東通原発の再稼働阻止への決意を新たにしました。

約400人の参加があり、集会後デモ行進を行いました。「核燃サイクル絶対反対、青森県を核のごみ捨て場にするな」などシュプレヒコールを上げました。

（青森民医連 事務局次長 對馬康文）

会場カンパ

総額  
132,411円  
でした。

## ビキニ水爆実験の悲劇を忘れず、核のない未来を目指すため考え続ける

静岡県での「被災70年2024年3・1ビキニデー」に2月29日（木）・3月1日（金）の2日間参加しました。初日の日本原水協全国集会では核廃絶へのパネルディスカッションが行われ、翌日は墓参行進・久保山愛吉氏墓前祭のほか、ビキニデー集会在開催され核兵器禁止のほかウクライナ・ガザでの紛争停止などを盛り込んだ集会アピールが採択されました。



3.1 ビキニデー

自分は献花墓参行進の中で、焼津市の港の風景と魚介の加工場から漂う香りから、漁業がどれほどこの町の住民の暮らしに深く関わっていたかを感じました。ビキニ環礁での水爆実験では第五福竜丸を始め約1000隻の漁船が被曝したと聞きます。当時は命がけでとった鮫が全て廃棄され、放射線による健康被害は乗組員の命を奪ったのみならずその子孫にも続いています。核兵器は日常を根底から破壊し、人々の未来や尊厳を奪うものだという実感がありました。

戦争が起こる可能性が高まっている現在、個人でできることは微小なものですが、関心を持ち、少しずつでも行動を積み重ねていくことが平和につながっていくのだと思います。（津軽保健生協 浅見瑞規）

### ポケットティッシュ配布で呼びかけ！

## 健康保険証廃止反対！

3月21日（木）、コープあおもり和徳店前で、「虹のバレンタイン行動」を行いました。悪天候で延期となり、一ヶ月遅れての行動となりましたが、社保平和委員会のメンバー6名と職員2名が参加し、呼びかけを行いました。

地域にアピールする前に、まずは誰が行っているのか知って貰いたいと、津軽保健生協の機関紙をバレンタイン行動のカードと一緒に渡しました。また、今年12月に予定されている保険証廃止の反対を訴えるべく、ポケットティッシュを通行人に配り、宣伝を行いました。人通りが少なかったものの、積極的に声掛けを行い、用意していた機関紙とポケットティッシュを全て配ることができました。

（津軽保健生協 葛西彩水）



# 心不全患者から求められる薬薬連携 上級編



2月17日(土)、浪岡中央公民館で2023年度薬剤師管理者研修が開催され、各法人の職責者15名をはじめ計26名が参加しました。講師には薬剤師中期研修に続き仙台循環器病センターの千葉貞志薬剤部長をお招きし、心不全患者から求められる薬薬連携について講義して頂きました。

今回の薬剤師管理者研修は、昨年12月16日に開催された薬剤師中期研修「心不全患者から求められる薬薬連携～初級編～」の続編的な内容で開催され、冒頭の講義では、ACS(急性冠症候群)について学びました。病態や治療、実臨床で使う用語や検査値について解説していただき、基本的な事項や薬物療法についての理解がより深まりました。

その後行われたグループディスカッションでは3人でグループを作り、症例患者が服用している薬剤についての問題点を議論しグループ毎に発表しました。DOACの減量基準を再確認し、アドヒアランスを考慮した薬剤の選択や処方設計を話し合うことが出来ました。日常業

務の中でも考え方を生かせる内容であり非常に有意義な内容でした。

後半の講義は、DOACの使用例や心臓リハビリテーションカンファレンスの症例解説が中心でした。2024年度の調剤報酬改定に心不全フォローアップが盛り込まれたこともあり、参加者の中から心不全療養指導士の資格取得を希望する薬剤師が出るなど、今後の薬薬連携への期待が高まる研修会でした。

アンケートでは中期研修と同様に慢性腎臓病(CKD)の研修会を待望する意見も多く、来年度開催されることを期待したいと思います。(あおもり協立病院 三上勇)

※DOAC…直接作用型経口抗凝固薬のことで、現在、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナの4種類あります。

## 旧優生保護法下における強制不妊手術に対する見解

# フォローアップ大学習会

## 優生保護法問題の本質と私たちの課題

3月26日(火)、オンラインにて「旧優生保護法下における強制不妊手術に対する見解」フォローアップ大学習会を開催し、職員238人が参加しました。講師にはNPO法人日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事の藤井克徳氏を招き「優生保護法問題の本質と私たちの課題～歴史解決に向けて今何を～」について話しました。

青森民医連では、旧優生保護法下における強制不妊手術に対する見解学習推進委員会を立ち上げ、2023年度1年間をかけ当見解について学習を呼びかけ、学習資料の紹介等をすすめてきました。委員会でも自身の理解を深めるために、委員会開催ごとにミニ学習会を実施してきました。県連全体での学習活動は、キックオフ学習会に268人、職場管理者・職場管理補佐研修参加者327人、職場討議には1,772人(のべ学習回数252回)、今回の大学習会参加者を含めると2,605人の職員が学習をしました。とても大きな学習活動になりました。

1年間の集大成としての今回の大学習会ですが、今なおこの問題解決のために中心的立場で活動をしているきょうされん藤井専務のお話を聴けたことは大変有意義だったと思います。優生思想の視点から「人権と公正」の視点への変換のためには、憲法を基軸に社会の事象に関心を高め、その事実を伝え学び、そしてあらゆる人たちと繋がっていくことだと示唆していただきました。当問題の全面解決(総理大臣の謝罪談話、国会での謝罪決議、新たな立法等)にむけ、みなさんにも裁判への関心を高めて欲しいなどの訴えがありました。

(津軽保健生協 看護介護部部長 寺島由美)

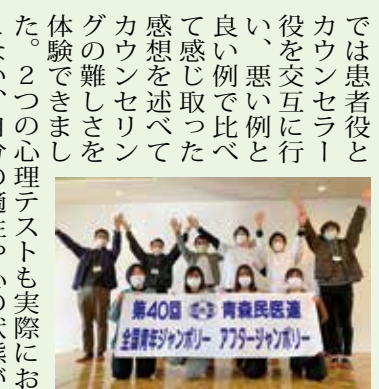
第40期全国青年ジャンボリーでの交流や学習を今後にかかす取り組みとして、対面形式にてアフタージャンボリーを花岡農村環境改善センターで開催しました。

午前は全国ジャンボリーの参加報告、感想とアイスブレイクによる交流を行いました。参加報告では全国ジャンボリー開会式動画を視聴し、昨年11月に開催された全国ジャンボリーの雰囲気や様子を思い出しもらえたと思っていました。アイスブレイクでは、委員の中で全国ジャンボリー当日に行っていた一番楽しいと評判であった「ITTO」というゲームを行いました。数字をイメージで表現して意思疎通を図るゲームで、指示されたテーマに沿って自分の数字の大きさを表現し、全員のカードが小さい順に並ぶ事を目指すもの。最後の3回目のテーマでようやく小さい順に並べることができ、大変盛り上がりました。

午後は生協さくら病院の横山裕也心理士による心理学の学習会で学びを深めました。ロールプレイでは患者役とカウンセラー役を交互に行い、悪い例と良い例で比べて感じ取った感想を述べてカウんセリングの難しさを体験できました。2つの心理テストも実際におこない、自分の適性や心の状態がわかかって興味深かったです。

第40期全国青年ジャンボリー・アフタージャンボリーの参加報告と心理学について学ぶ

では患者役とカウンセラー役を交互に行い、悪い例と良い例で比べて感じ取った感想を述べてカウんセリングの難しさを体験できました。2つの心理テストも実際におこない、自分の適性や心の状態がわかかって興味深かったです。



(健生病院 豊嶋速太)

私もこのような医師になりたいと思つた

# 春の高校生医師体験

3月から4月にかけて高校生医師体験を八戸・青森・弘前の三会場で計4回開催しました。医師志望の高校生38人が参加をしました。

今回の医師体験は各事業所・医師・スタッフの協力と工夫のもと、実際の医療現場や医師の仕事を経験生に感じてもらおう内容で実施しました。

八戸生協診療所・坂戸慶一郎医師の訪問診療同行

八戸医療生協本部会議室・研修医・相内一朗医師による高校生との模擬ケースカンファレンス「研修医として感じた多職種連携の重要性」



協立クリニック外来・高校生による模擬医療面接・主訴・腹痛の患者さん・磯島寿人医師による腹痛症例のヒント（虎の巻）をもとに疾患を

考える内容で、長谷部瑞希医師・青木芽医師・高橋亜実医師が主治医役の高校生にアドバイスしました。

健生クリニック外来・健診結果の問診ロールプレイ・医師・患者・家族の三役を体験する宇藤直人医師監修のシナリオをもとに三者の役割を

青木芽医師・嶋中拓弥医師・村田耀医師・宮澤千裕医師がレクチャーとアドバイスして進めました。

参加者からは「関わった先生たちと将来医師として出会えるのが楽しみです」「青森県で医師として働くうえで大切なことは何か」といった感想や質問が出されました。

高校生のモチベーションを上げるだけでなく、医師と関わる時間を持つことで「こういう医師になりたい」という医師像を持つ大切な機会にもなりました。

(青森民医連 原圭輔)

3/12、3/19訪問看護ステーション・3/13~14藤代健生病院・3/21~22健生病院で春の1日看護体験を実施し、延べ26名の看護学生が参加しました。

## 春の1日看護体験(看護学生)



訪問看護ステーションでは、支所合わせて計5名参加し、看護師に同行して利用者のバイタルサイン測定等を行いました。学校の知識だけではあまりイメージできない在宅看護の実際を知る機会となりました。

藤代健生病院では、1日のみ8名(1日目：5名、2日目：3名)と2日間1名の計9名が参加しました。精神科の個別性を捉えた患者対応やコミュニケーション方法などを学び、看護師像の幅が広がった様子でした。

健生病院では、12名(1日目：7名、2日目：5名)

が参加しました。体験した職場の特徴をよく理解し、多職種連携(チーム医療)や入院中のケアから退院支援までさまざま学ぶことができました。

朝は緊張した面持ちの学生たちが、帰りには「楽しかった!」「いろいろ体験できた」と充実した顔つきとなりました。また3事業所すべての看護体験に参加した学生から「法人として幅広い看護を提供していることがわかった。どの事業所の看護師さんも親切で優しい。まだ悩んでいるが、今回の体験を通して、就職先として思いが強くなった」という感想もあり、看護体験が学生に与える影響の大きさを感じるとともに、民医連看護を知ってもらう機会にもなることを改めて実感しました。

(津軽保健生協 阿保祥子)

2024年春

## 高校生一日薬剤師体験会

昨年の夏休みに引き続き、医療現場で高校生一日薬剤師体験会を対面で開催しました。

3月9日(土)は弘前会場に8名、16(土)は青森会場に11名、23日(土)は五所川原会場に4名の高校生が参加しました。

薬剤師から薬局活動をパワーポイントで紹介した後、実際に働いている薬剤師の医療現場で見学、模擬体験を行いました。ファルマ弘前薬局、健生病院、あおもり協立病院、大野あけぼの薬局、ファルマ一ツ谷薬局それぞれ薬局の特徴をいかし、各会場で工夫を凝らした模擬体験でした。

その後、高校生の質問に薬剤師や現役大学生が答え、メモを取る高校生もいました。最後には人口比に占める薬剤師数(県内が下位であること)や、全国の薬科大学数が増える一方で大学間では定員割れしている現状や、医師や看護師と比較し現役生の国試合格率が低いことも紹介し、薬科大学に入学しやすい一方で薬剤師に合格するハードルが高いのが実態ですが、コツコツ勉強を6年間積み上げてがんばってほしいと激励をしました。地元薬科大学があるとはいえ、私立大学学費は高いため学期間中の学費を紹介した上で、青森民医連奨学金制度をはじめ高等教育就学支援制度(授業料等免除と給付型奨学金)や学生支援機構など、公的な奨学金制度の紹介を行ないました。

参加した高校生からは、「患者さん一人ひとりに寄り添っていることがわかりました」「丁寧に仕事をするために、今から一つ一つ手を抜かずやる力を身につけたいと思いました」など、前向きな意見があり、将来、薬学生と再会し薬剤師として一緒に働き、高校生に魅力のある体験会を継続していきたいと思えます。

(青森民医連 立花典明)



# 第8回 北海道・東北地協 リハビリ技術者交流集会

3月2日(土)に仙台市に於いて、「第8回北海道・東北地協リハビリ技術者交流集会(宮城県連主催)」が4年ぶりの集合形式で開催され、51名のセラピストが結集しました。また青森県連から8名の職員が参加し、記念講演や各県連の中堅教育プログラム、グループワークなどとても中身の濃い交流集会でした。

交流集会のテーマは「職場の成長～中堅職員の育成～」と題し、記念講演では東北保健医療専門学校藤井貴先生より、「行動力が高まり、実務に役立つ「思考」のメソッド」の講演があり、普段かかわる学生等若い世代の思考から、中堅職員が直面する問題、それに取り組む思考法などを学びました。

各県連からの報告では、中堅職員ラダーの作成やキャリアアッププランの整備を図った取り組み、うまく活用されない現状など、それぞれの職場での課題、悩みも共有することができました。

青森県連からは、健生病院の中堅教育のほか、リハビリ技術者委員会で取り組んだ民医連中堅教育について、「自分の言葉で民医連を先輩へ語る職員」の育成、「次世代のリハビリ技術者委員」の育成を目的として取り組んでいる内容を報告しました。他の県連、事業所でも民医連教育は課題とするところも多く、有意義なディスカッションができました。

今回の参加で学んだ内容を参考にしながら、今後の中堅教育に落とし込んでいければと思います。

(健生病院 対馬健洋)



1日目の学習講演では、新薬評価について、情報の質の評価、有効性や安全性、経済性について評価するにあたって重要な点などを教えて頂きました。その後の医薬品評価ワークショップでは実際に承認されている医薬品について参加者で評価し、6グループに分かれて話し合い、発表しました。同じ薬剤師同士ではありますが、それぞれ見る点や意見が異なることもあり、一人では気づけない部分も学ばせていただきました。

2日目の動画視聴では、学ぶことを習慣づける、もっと学びたい、深めたいとなるのが学習会の最大の効能であるということを感じて頂き、今回の研修を受けてそのことを実感

石川城北病院の中西剛明氏が新薬評価ワークショップ・審査報告書分析についての学習講演をしていただき、その後医薬品評価ワークショップを行いました。2日目は岡山県労働者学習協会の長久啓太氏による「発達の土壌づくりを担う皆さんへ」というテーマの動画を視聴して、その後SGD(ワールドカフェ方式)を行いました。

## 北海道・東北地協 中堅薬剤師 研修会

3月16日(土) 17日(日) 仙台市のつばさ薬局長町店にて2023年度北海道・東北地協中堅薬剤師研修会が開催され、35名が参加しました。1日目は全日本民医連医薬品評価作業委員である

しました。SGDでは「中堅薬剤師として後輩への接し方、指導時の悩みなど」と「2日間の本研修を通しての意見交換」というテーマをワールドカフェ形式で話し合いました。それぞれ持つ悩みなどを互いに打ち明け、互いに打ち明けることで互いにアドバイスし合え、今後の後輩への接し方、指導に活かしていきたいと思いました。

(大野あけぼの薬局 山上哲司)



あなたと民医連をつなぐ月刊誌

### いつでも元気

MIN-IREN

2024 6月号 380円 好評発売中

テレビで会えない芸人に会ってみた

みんなの教室 女性の健康と権利

珠洲市の原発計画 石川

まちなか 三重県菟野町

食と健康 おかずスープで大満足!

あらかると年間大賞発表

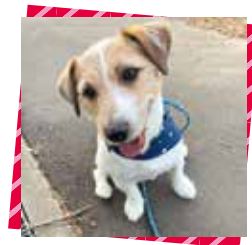
発行＝株式会社民医連 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

新入職員のみならず、まだ購読されていない職員の方は、購読の申込みをお願いいたします。取り扱い各法人本部担当者がおこなっておりますので、よろしくお祈りいたします。

# うちの メコッコ

vol. 78

わが家には、元気いっぱいのジャックラッセルテリアのまるくんがいます。ジャックラッセルテリアは小型犬の中でも活発で、まるでジェットエンジンを搭載したようなエネルギーを持っている愛らしい姿と明るい性格は、家族みんなの癒しとなっています。まるくんはブローケンコート



## name

まるくん  
ジャックラッセルテリア  
オス

## age

4歳



るたびに新しい魅力が見えてきます。ボサボサに伸びた姿や短くカットされた姿もキュートです。愛くるしい表情は、誰もが虜になること間違いありません。親バカです。

家では自分でおもちゃを投げて遊んだり、りんご畑ではりんごをボールにして遊んだりしています。また、新しい技を覚えたりと、まるくんは家族の一員として愛情と幸せを与えてくれる存在です。彼との毎日は、笑顔と楽しさで満ちています。いつまでも元気でいてほしいです。(藤代薬局 三上菜美)

## 私の三つ星★★★

### オススメ

## らーめんふあくとりー のすけ



八戸市にある「らーめんふあくとりー のすけ」を紹介します。

営業時間は 昼11:00～15:00、夜17:00～19:00、毎週火曜日と、毎月第二水曜日が定休です。

お店は八戸市庁や八戸市美術館、さくらの百貨店等が近い中心街に位置しています。

元々は沿岸部にあったお店が、東日本大震災で被災、中心街のデパートの5Fに移転。その後、2022年4月にそのデパートが閉店となり、2022年8月より現在の場所にて再開。再開して約1ヶ月半後、今度は店主が脳梗塞を発症。約3週間後に時短での営業再開。現在は体調も快復され通常営業されております。

※店主が書かれているブログ“のすけ通信”参照。

様々な困難に見舞われながらも、美味しいらーめんを提供していただき感謝の念に堪えません。

私のオススメは「つけのすけ」です。赤白黒と種類があり、辛いのが好きな方は“赤”、豚骨系が好きな方は

## 2024年5月 5月 第56期第25回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 人事
- >> 4. 決裁・承認事項
  - (1) 奨学生関係
    - ① 看護奨学生
    - ② 薬学奨学生
  - (2) 県連・地協・全日本関係
    - ① 第46期全日本民医連 部員・委員の委嘱要請
    - ② 青森県民医連第57回定期総会
      - ・ 代議員・総会役員
      - ・ 発言準備
      - ・ 次期理事構成・退任理事
      - ・ 議事日程
      - ・ 監査報告
  - (3) 各種委員会から
- >> 5. 協議事項
  - (1) 総会方針学習月間推進委員会報告
- >> 6. 医師・医学生関連
- 7. 報告事項
  - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
  - (2) 地協
  - (3) 県連・共闘関係
- >> 8. 各法人・事業所から

“白”を選ばれると良いかと思いますが、つけ麺以外ももちろん美味しいです。以前「みそのすけ」がローソンより販売されたこともありますので、食べたことがある方もいるのではないのでしょうか。

八戸にいらした際は、是非一度、お立ち寄りください。

(八戸生協診療所 佐々木啓太)

